

162-参-経済・産業・雇用に関する調査会…7号 平成17年05月11日

※成熟社会における経済活性化と多様化する雇用への対応について参考人より意見聴取

○理事（辻泰弘君） では、まず梅津参考人からお願いいたします。

○参考人（梅津祐良君） 御質問ありがとうございます。

ガバナンスの問題というのは非常に大きな問題と考えておりますが、特にドイツ、フランス型というのはボードのチェアマンとそれからCEOですね、執行部隊の長と完全に分離して、イギリスではどうも時々同一人物が二つの役割をしてしまうことがある。それから、アメリカでは今分離しようとしていますけれども、やっぱり同一の人がCEOであってチェアマン、そういうことを両方やっている。その両方やっている場合に問題を起こす可能性が高いわけですね。エンロンとかワールドコムというスキャンダルがありましたけれども、自分の、何と申しますか、私腹を肥やすために株価を操作したという、これは完全にガバナンス、要するにチェアマンの方から、あるいはボードの方からチェック機能が働かなかったということ。ですから、これは問題でありまして、アメリカでも今反省が起こっています。

それから、日本についていいますと、実はオフィサー、要するに執行部門の責任者ですね、オフィサー、チーフ・エグゼクティブ・オフィサーとかチーフ・オペレーティング・オフィサーとか、これについてと、それからボードのチェアマンあるいはディレクターの役割がどうもまだ分離していない。オフィサーという言葉がはやり出したのもここ十年ばかりかと思えます。何と申しますか、概念としても定着していないし、実践としても定着していないということですね。

私もちょっとこの間驚いたんですけれども、三洋電機という大変優れた会社で、女性の、チェアマンでありCEOという二つの役職をアポイントされたわけですね、ちょっと名前は申しませんが。あれはちょっと問題ではないかなと思っています。女性のあの方は大変立派な方だし、会長職は私はできると思うんですね。だけれども、CEOというのはビジネスの毎日のこと、あるいはどういう新製品を開発して、どういうふうにマーケティングをやってという、そういうディシジョンをする役割ですから、ちょっと素人の方で入ってすぐやれるという仕事ではないというふうに思います。

ということで、オフィサーとそれからチェアマンシップというのはきちんと分けるということがこれから必要だと思います。育成についても、やはりどういう道でトップ層の教育をしていくかということやはり方向付けをしてあげて育てていくべきだというふうに考えております。

○理事（辻泰弘君） ありがとうございます。

では、多賀参考人からお願い申し上げます。

○参考人（多賀幹子君） 御質問ありがとうございます。

ニートというのはイギリスが発祥の国でして、ブレアさんが言い始めた、もう御存じだと思いますけれども、教育も受けてないし、働いてもないしと。働くための準備にも入ってないと。何もしてない人たちということですね。イギリスで百十万人ということで、毎年八万五千人増えているということです。でも、始まりまして、ブレアさんがやりました、いろいろなものがあるんですが、コネクションズというものを、まあコネクトしていくということをつくったんですけれども、全国に四十七ほどあるんですが、これを始めまして、二〇〇三年で一〇%ほどニートはもう既に減少しておりまして、そのニートということでいろいろなセンターをやって、そこにパーソナルアシスタントを置いて、いろいろ窓口を開きまして一人一人の若者とお話するというようにしたんですけれども。

そのときに、若年のホームレスの人と話すとき、そこには親の離婚が絡んでいると。あるいはどうしても勉強したいのに御家庭が貧困で、貧乏で行けないというときには奨学金を教えるとか、非常にもう若者一人一人が、一口にニートとは言っても抱えている背景、問題はもう一つずつ違うということが分かってきて、それぞれに一人一人に対応しようというようになっていきます。

そのメンター制というのがかつてからあったんですが、メンターということで、地域の方がちょっとこう問題のある子供を一对一でお仕事の後に会うメンター制とか、アメリカはビッグブラザー、ビッグシスターというのがあるんですけれども、やはりこれも週末に恵まれないお子さんに一对一で会って健全な成長を促すと。ビッグブラザー、ビッグシスターというように、やっぱりニートと一口で言うよりも、それぞれの方の問題を一对一で対応していこうというようになって大変成功しているということが言えると思います。

ニートというのは現に減ってきていますし、あるいはまた何をニートというかという、言葉も少しずつ出てきておりまして、ニートというのはもうやめて、エクスニートという、もう過去の、前のニートであって、今はイートでいこうと。ノット・イン・エデュケーションのNを取りまして、エデュケーション・エンプロイメント・トレーニングをくっ付けましてイートと。ニートからイートへということで、またブレアさん三回目になりましたのでこれを推し進めていくというふうに言っていますので、イートに向かって進んでいくんじゃないかと。個別に対応するということが大事なようですね。

〔理事辻泰弘君退席、会長着席〕

それから、そのギャップイヤーの関係ですけれども、ギャップイヤーというのが高校と大学の間のギャップということだけに狭まれていたのが、もう就職の前でもいい、就職三年後でもいいというふうに非常に広がりを見せていますので、そういった面ではエクスニートが働き出したときに、それが決まった時点で、そこでギャップイヤーを取ってもう一度自分の、どうして働くかというのを見直していくことは十分に可能だと思います。

自分探しということでは、そのニートもパーソナルアシスタントとお話しして、いろん

なことを聞いて自分の将来を決めていくわけですし、ギャップイヤーはそれをまた自分でボランティアなり旅行なり奉仕活動とかお仕事なんかで探していくわけですから、重なる部分は十分にあるんじゃないかと思います。